東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート
No. 126
2024年7～9月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。
当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81
TEL 0172-33-8404 業務部 -2024.10.31-
HP https://www.shinkin.co.jp/toshin/

《今回調査のポイント》

● 7～9月期（今期）業況判断ＤＩ値 やや悪化で推移

7～9月期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比4.1ポイント低下の▲6.2とやや悪化し、前回予想値(▲9.0)に対しては2.8ポイント上回る結果となった。項目別では、売上･受注で1.1ポイント低下の1.0、売上数量は2.4ポイント上昇の0.3、利益では2.1ポイント低下の▲9.3と2項目でやや悪化し1項目でやや改善となった。

今期ＤＩ値は前期に比べやや悪化し昨年同月も下回る結果となる。ねぶた祭り等のイベントはあったものの依然として「材料･仕入価格の上昇」、「経費の増加」等が経営上の問題点としてあげられている。また、中心商店街の大型商業施設の閉店など地域によっては、集客力の低下が心配されマイナス要因を払拭できない状況にある。

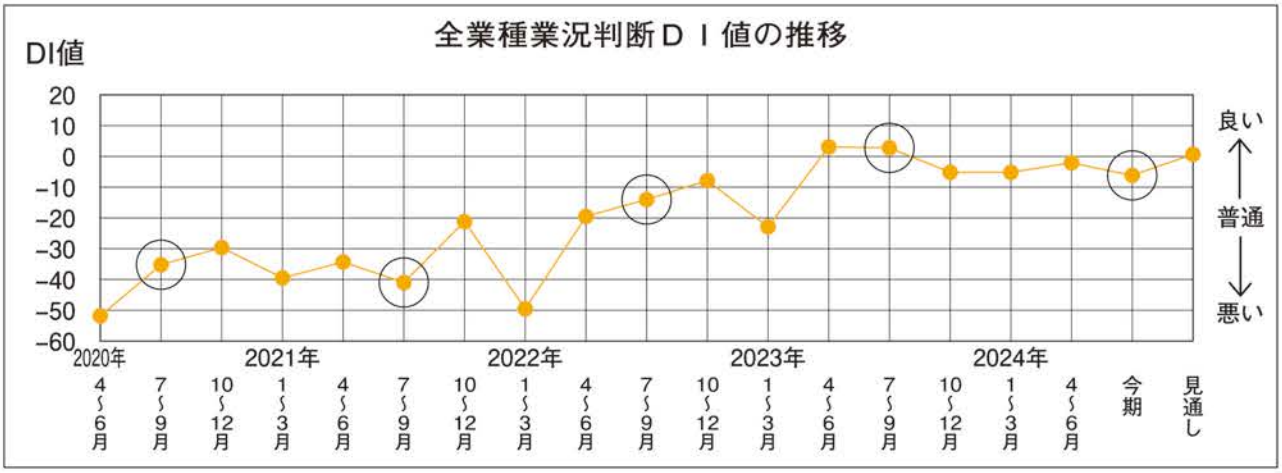
業況お天気図

● 10～12月期（来期）各項目別ＤＩ値 やや改善を見込む

10～12月期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比5.5ポイント上昇の▲0.7とやや改善の予想となった。項目別では、売上･受注で2.0ポイント低下の1.0、売上数量も4.4ポイント低下の▲4.1、利益では3.4ポイント上昇の▲5.9と2項目でやや悪化し1項目がやや改善となる。

季節要因から運送業が大幅改善となり、改善･横ばいが6業種、悪化が2業種となった。飲食業に於いては52.6ポイント低下の見通しとなる。大型商業施設閉店に伴う人流の変化、物価高騰による消費者の消費低迷、「仕入価格高騰」「経費の増加」の継続等経済環境の悪化が懸念されている。

業況予想お天気図



お天気図

（お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。）